

水木しげる氏 表紙絵

＝やあ力ニ君いらっしやい＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|-----------------------|-----|
| ・ 特集：私のすすめるこの1冊 | 2～5 |
| ・ 第47回樟まつり | 6 |
| ・ 絵本の読み聞かせ講座 | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | 8 |

※音声版をご希望の方は図書館へご連絡ください

私のすすめるこの一冊

毎年恒例の皆さんからお寄せいただいた「私のすすめるこの一冊」です。
今年はどんな本と出会えるでしょうか。



『バッハの思い出』

アンナ・マグダレーナ・バッハ著 山下 肇訳 講談社 <推薦者：吉永 靖子>

この本は大バッハ（ヨハン・セバスチャン・バッハ）の二度目の妻アンナ・マグダレーナによる思い出の記である。

超天才のバッハの伴侶として過ごした幸福な人生を妻の目を通して生き生きと余す所なく描き出している。夫婦とは、結婚生活とは、父親とは、母親とは、家族とは。アンナの描くそれは何と芳潤に豊かなものである事か。

謹厳実直で、バッハ家特有の強情っぱりな教会楽長としてのバッハ。しかし、一旦家庭人となつては開けっ放しの快活な愛情そのもので何と良き父親であった事かと記している。

主イエス・キリストを信奉し、マルチン・ルターを尊敬し、敬虔な教徒として常に音楽を神に捧げたバッハ。自らもソプラノ歌手として宮廷に仕えていたアンナ。家庭はいつも音楽に満ちあふれていた。

美しい文章で綴られたこの著作は今でも多くの読者を引きつけている。読むとたちどころに魂が癒される事、請け合いの本である。

『女生徒』

太宰 治著 角川文庫 <推薦者：名取 末子>

数々の名作を後世に残し、熱烈なファンの読者も多い作家のこれは短編集。

十四編集録、どれも女性一人称で描かれている。太宰作品は重い、暗い、長いなどと敬遠気味の方には是非お薦めしたい。

その中の一つ「貨幣」を少しご案内すると、第二次大戦の敗色濃いどん底の日本が背景。百円札（女性代名詞）の行状記。お札側から見た人間模様が巧みに書かれている。

大工の工賃として支払われ、神棚に供えられる間もなく、質屋に女房の着物十枚と換えられ、質屋の金庫に入れられたり、医学生と瀬戸内海死出の旅に同行したり等々、当時の時代観察が出来る。

他の作品も全て作者特有の哀切、抒情が折り込まれ、心象心理が面白い。

短篇の良さは、区切りが早く、肩が凝らずに読み切れる。夜長に一作ずつ誘眠に。

『第八森の子どもたち』

エルス・ペルフロム著 福音館書店 <推薦者：井上 暁子>

1944年オランダアルネムで激しい戦闘があった。イギリス軍中心の連合軍はナチスドイツ軍に負け、アルネムに住む人々は町を出て避難民という形であちこちに散っていった。11歳のノーチェもまた、父親と一緒に町を出る。避難民であふれ、2人はなかなか泊めてもらうことができないが、人里離れた農家クラブヘクにやっと住まわせてもらうことができた。クラブヘクでの暮らしは貧しいながらも落ち着いた日々であり、ノーチェは終戦までかけがえのない時間を過ごすのである。そりに乗って遊んだり、おとなの仕事を手伝ったり。時には森の中に隠れ潜んでいたユダヤ人家族の手助けをし、また時にはあちこちで見かけるようになったドイツ兵たちの様子を興味深く観察する。そしてある日突然戦争が終わったことを実感し、唐突にクラブヘクでの生活に終わりを告げ、アムステルダムで父親を2人の生活に戻るのである。戦争によって振り回されたその日々を10代の子どもの瑞々しい視点で描いている。

『アルケミスト ―夢を旅した少年―』

パウロ・コエーリョ著 角川書店 <推薦者：安西 帆宣>

僕が小学3年生の頃、誕生日プレゼントとして母がこの本を買い与えてくれた。

物語の舞台はエジプトとその周辺。有名な小説だからあえて説明は要らないかもしれないが・・・羊飼いの少年が各地を渡り歩き、自分の夢に見た土地に辿り着き、己が最も欲していたものを手にするまでが描かれた本だ。

平易な言葉で、簡潔に描かれているストーリーやキャラクター。作者であるパウロ・コエーリョの深いメッセージ性のある文章の一行一行が、いつ読んでも瑞々しく、いつでも僕の愛読書だ。がっつり読んでも、パラパラと適当にページを繰ってもよい。その時の気分によって物語のヴィジョンはその姿を変えてゆく。

子供時代、考古学者になるのが夢で、エジプトがとても好きだったため、自分の夢見る未来に主人公を重ねて読んでたりもした。

夢を持つ人、みる人、夢に迷う人、追う人、全てのドリーマーにおすすめしたい本です。

『国宝 上・青春篇 下・花道篇』

吉田 修一著 朝日新聞出版 <推薦者：銅谷 孝子>

新聞連載の間、毎朝待ち続けた小説が完成し、青春篇、花道篇として出版されました。

歌舞伎界の御曹子の美少年俊介と、九州の極道の家に生まれ幼い時、父を殺されて歌舞伎界に入ったイレズミ入りの美少年の喜久雄。この同い年の2人が己の信じた芸の道に互いの生涯を懸けて精進する波乱万丈の物語です。

伝統舞台芸術を学ぶには、当人の素質と才能等は必須ですが、芸の大先達の指導が不可欠であり、また、家族や一門や周囲の関係者の協力と支援そして情愛が、いかに大切かが描かれていて、心打たれるものがあります。

やがて二人は大名優となり舞台の華となります。そして俊介は片脚切断にもめげず芸術院賞を受賞し、両脚切断後もたおやかに美しく舞台を続けました。喜久雄は人間国宝となり華麗なる芸を後世に伝えてゆきます。

豪華絢爛な舞台姿が彷彿と目に浮かぶこの作品は、どれ程の膨大な資料と知識を集めたのだろうか、作者に敬服あるのみです。

『日本軍兵士 ―アジア・太平洋戦争の現実―』

吉田 裕著 中央公論新社 <推薦者：長尾 敏博>

私達はアジア・太平洋戦争戦没者310万人と数字で示されることがあるが、戦場で死んだ兵士1人ひとりはどうのように死を迎えたのだろうか。

特に海外で戦死し遺骨も帰らなかった兵士の死に様はどうだったのか。戦後70年も経ちながら今迄あまり省みられなかった兵士からの目線で戦争の実態を追った研究がここになされた。

そこには数多くの兵士が敵と勇敢に戦ったとは言えない悲惨な死に様が記されている。

著者は言う。餓死を中心にした戦病死が死の最大の原因だったと。様々な形での無残な死の集積でその1つひとつの死に対するこだわりを失ってしまえば、私達の認識は戦場の現実から確実にかけ離れてしまうだろうと。

中でも特に私が憤りを覚えるのは「処置」という名の傷病兵の殺害である。兵士は人間としての価値を与えられず、人の命が物の様に消費されていくのである。

また背景にあった日本軍の異常な体質にも言及している。日本人必読の書である。

『発明家になった女の子マッティ』

エミリー・アーノルド・マッカリー著 光村教育図書 <推薦者：佐々木 功>

現在、私達はビニール袋で買った品物を入れて気軽に持ち帰れる便利な時代に生活しております。

この本の主人公マッティの頃は、紙袋で買い物を入れ封筒型なので立たせられず不便でした。

18歳の時こうした紙袋工場で働き始める中、新しい紙袋製造機を発明しようとする人々が居ると聞きます。底が平らで立たせて置ける紙袋です。

マッティは自分も挑戦することを決め下宿先の地下室で2年間研究し完了して勤務先の機械工場の職人に手伝ってもらい、試作機を役所へ出すと、役人は「この発明はもう特許がとられている。先週にね」と答えました。職人が「うちの工場のやつだ」と言いました。マッティはがっくり肩をおとしたのです。役人の勧めで裁判をやり、証明の友人や証拠書類によって勝利するのです。

母と二人の兄との貧しい生活の中、亡き父の道具箱の工具で次々と発明品を考え製作する歴史観を変える感動の一書です。

『恋する日本語』

小山 薫堂著 幻冬舎 <推薦者：五十嵐 七瀬>

フランス語は愛を囁く言葉、イタリア語は歌う言葉とはよく聞きます。では日本語は？小山薫堂は「日本語とは、恋をするために生まれた言語」といいます。

本書は「刹那」「玉響（たまゆら）」などの35個の言葉を、その意味に着想を得たショートストーリーとともに「恋する日本語」として紹介する短編集です。わずか150ページ足らずの本書のポイントは“^{そしゃく}咀嚼”すること。想像や自分の経験をもとに言葉が持つ物語に思いをはせる。小山薫堂の薦めのおりに“^{そしゃく}咀嚼”して読むと思った以上に時間が経っていて、没頭していた自分に気がつくのです。ちなみに私のお気に入りには「一曲（ひとくねり）」。「意味は「ちょっとすねること」。この感情を絶妙に表す言葉があるとは・・・と感動しました。

日本人はかつて和歌を用いて愛を語っていました。三十一文字に想いをこめた日本人だからこそ、日本語には様々な恋の物語が潜んでいるのかもしれませんが。日本語の魅力を再発見できる1冊です。

『辺野古』

中村 卓哉著 クレヴィス <推薦者：田邊 浩子>

私は辺野古の海岸まで行きましたが、海の中がこんなにも美しいとは知りませんでした。

今、必見の写真集です。写真のあとの文章がまた良いのです。サンゴの生き方がよくわかりました。

『変化朝顔図鑑—アサガオとは思えない珍花奇葉の世界—』

仁田坂 英二著 化学同人 <推薦者：藤原 芳恵>

夏の花といえば朝顔ですが、この本の主役の朝顔は不思議な花、葉の形をした「^{へんかあさがお}変化朝顔」です。

私たちが知っている一般的な朝顔と違い、本当に朝顔？と思う程、見た目が違います。撫子や牡丹のような形の花や葉が龍の爪のようなものもあります。

この変化朝顔は、江戸時代にブームになり様々な種類が生まれました。一風変わった美しい朝顔を知ってほしいです。

『女たちの遠い夏』

カズオ・イシグロ著 小野寺 健訳 筑摩書房 <推薦者：藤田 義人>

カズオ・イシグロは切ない。切なくて優しく愛おしくて哀しい。といって情緒的な甘さに流れてしまうわけではない。「女たちの遠い夏」では戦争と原爆という問題を内包しているが、政治的メッセージを声高にイデオロギッシュに叫ぶことはしない。極めて知的で個性的で静かに真摯で適度に情緒的で文学的なアプローチで見事な表現を成立させている。

この作品は彼の中でも日本的で昭和的だし「日本の夏」的で夏という季節が持っている暴力性や耽美さ、寛容さ、ノスタルジーそして切なさ……。

解説の池澤夏樹は小津映画をオーバーラップさせているが、成瀬巳喜男や川島雄三らの映画を彷彿とさせる。彼らの映画もカズオのこの作品にも日本の女性が（時に愚かだったりする事はあっても）逞しく健気に美しく生きている。

カズオが父の仕事でイギリスに渡ったのは1959年。日本の表現者たちが1960年以降アメリカ文化に影響されすぎた事を思うと、結果的には良いタイミングで日本を脱出したかもしれない。日本語を話さない英国籍のカズオはその細やかさ、繊細さ、優しさ、丁寧さ、臆病さ、狡さ、暗さ……で良くも悪くも間違いなく日本人のメンタリティを持っている。

この作品、今は改題され「遠い山なみの光」となったが、「女たちの遠い夏」の方が僕は好きだし、オリジナルタイトルの「A Pale View of Hills」の「Pale」という言葉はカズオの本質を現わしていると、僕は勝手に思っている。

『日記は囁く』

イザベル・アベディ著 酒寄進一訳 東京創元社 <推薦者：横坂 彩乃>

16歳の少女ノアはドイツの小さな村で、夏のバカンスを過ごすことになる。そこで出会った青年ダーヴィトとノアはあることがきっかけで30年前にその村で起きた殺人事件を追い始める……。

ミステリですが、ノアの心情の描写が巧みで青春小説としても楽しめます。夏のドイツの美しい風景も素敵な一冊。

『大あたりアイスクリームの国へごしょうたい』

立原 えりか作 北田卓史絵 旺文社 <推薦者：勢能 里佳子>

小学校1～2年生向けの児童書です。表紙はアイスクリームがたくさん書いてあって、中身も勿論アイスクリームだらけ！！大人が読んでも子どもが読んでもにっこりできる、そしてアイスクリームがど～しても食べたくなる（！？）1冊です。



たくさんのご応募ありがとうございました。
お寄せいただいた原稿は、掲載の都合により
一部編集させていただきました。



第47回 樟まつり ― 共に生き、共に学ぶ ―

「樟まつり」は、1年の学習の締めくくりとして、また一般市民に生涯学習への参加の機会として、毎年2月に図書館と生涯学習団体「アカデミー愛とぴあ」が、共催協力して開催しています。ご参加をお待ちしています。会場など詳細は、市報1月20日号や図書館配布物をご覧ください。

日 時	場 所	催 事 ・ 講 師 等	
2月2日(土) 午後2時～4時	たづくり大会議場	文芸講演会	思考するのは人間だけではない 島田 雅彦氏
2月5日(火) 午後2時～4時	たづくり映像シアター	文化講演会	流転の子 最後の皇女・愛新覚羅孀生 本岡 典子氏
2月8日(金) 午後2時～4時	たづくり大会議場	講演会	「おっくう」という病 池内 紀氏
2月11日(月・祝) 午後2時～4時	たづくり大会議場	講演会	新田義貞と鎌倉(仮) 錦 昭江氏
2月12日(火) 午後1時半～4時	たづくり映像シアター	第46回 市民歌会	選評と講話 雁部 貞夫氏, 来嶋 靖生氏, 小島 ゆかり氏
2月14日(木) 午後2時～4時	たづくり大会議場	文芸講演会	ハックルベリー・フィンの冒けん 柴田 元幸氏
2月17日(日) 午後2時～4時	たづくり大会議場	文芸講演会	言葉の不思議 穂村 弘氏
2月19日(火) 午後2時～4時	たづくり大会議場	第47回 市民句会	選評と俳話 太田 土男氏, 棚山 波朗氏 權 未知子氏, 坊城 俊樹氏
2月22日(金) ①午前10時 ②午後2時	たづくり くすのきホール	名画鑑賞会	カルテット！人生のオペラハウス 監督:ダスティン・ホフマン 出演:マギー・スミス, トム・コートネイ ほか

展 示 期 間	場 所	催 事 等
2月7日(木)～11 日(月・祝)	たづくり南ギャラリー	調布淡彩画展 (調布淡彩画の会作品発表)

平成30年度 絵本の読み聞かせ講座 を行いました

調布市立図書館では、毎年1回、子ども向けの絵本の読み聞かせについての連続講座を開催しています。平成30年度は、10月4・11・18日（木）に行いました。

1日目と2日目には、絵本の読み聞かせの仕方や、おはなし会のプログラムの組み立て方、絵本の選び方を、実際に絵本を紹介しながらお話ししました。そして2日目の最後と3日目に、参加者に読み聞かせの実演をしてもらいました。読み聞かせ実演では、図書館職員が参加者一人ひとりに講評をしました。



▲ 1日目の様子

講座でお話した内容から、よくある質問とその答えをご紹介します。

Q. 読みきかせの途中で子どもが発言したときは、どうしたら良いですか？

A. その子に視線を向けて聞いているということを示してあげ、言葉で回答はせずに読み進めてください。

Q. 読みたい本があるのですが、自分にはなじみのない方言で書かれています。どのように読めば良いですか？

A. 自分がその本を良いと思ったなら、発音にこだわらず読んで大丈夫です。

Q. セリフなどは声色を使って読んだ方が良いですか？

A. 無理に声色を出そうとしなくても、そのまま読んであげれば子どもには伝わります。

Q. 見開きでそれぞれのページに違う場面が描かれている時はどのように読みますか？

A. 表紙と裏表紙をくっつけるように本を折って片側ずつ見せるか、見開きをそのまま開いて読んでいる場面の絵を手で示しながら読むと、今読んでいる場面がわかりやすくなります。

来年度も開催予定です。ぜひご参加ください！

調布の富士詣^{もう}で関^{のぶ}口^{あき}宣^{あき}明

〈富士信仰のはじまり〉

調布市内には、富士見町、富士見通、富士向、藤（富士）塚など、「富士」のついた地名が残っています。農業が盛んだったころには、これらの地域では、富士山は、穀物の種まきの時期を知り、天候を判断するのに役立つなど、とても身近な存在でした。また、米作りに欠かせない豊かな水をもたらす水源としても、山は古くから神聖視されています。特に富士山は、天に近く、天から雨をもたらす霊山として信仰されてきました。富士山頂は、天と地を往き来できる極楽浄土と考えられ、中世以降、登山する修行者が後を絶ちませんでした。

〈富士山の養蚕信仰〉

江戸時代に富士山の信仰を広めた「食行身祿」という宗教者がいました。身祿は、米作りに次ぐ農家のなりわいである養蚕について、富士山の祭神である「木花佐久夜毘売命」を信仰すれば、養蚕が繁盛すると説きました。また、富士山麓の青木ヶ原樹海には「風穴」といって、年間を通して、摂氏2度前後の冷温を保つ洞窟があります。今では観光名所になっていますが、明治時代には、「種紙」といって、蚕が卵を産み付けた台紙を保存しておく場所に使われました。深大寺地区で種紙販売に携わった村人は、この風穴を利用し、養蚕農家の希望の期日にあわせて、種紙を届けていました。このように、自然を利用できる環境も、養蚕の豊作を富士山にもとめる信仰を生み出す一要因になりました。江戸時代も末ごろになると、毎年、富士山や青梅の御岳山など、村の外から御師（宗教者）が訪れ、御札を配って山のご利益を説いて歩きました。村人は、これを神のお使いと考え、進んでお初穂料という寄附をしました。ですから、調布の旧家には、富士山などの養蚕守護の御札が残されています。

〈徒歩で行った富士詣でと富士塚〉

調布で養蚕が盛んになりつつあった明治の初めごろには、飛田給や深大寺地区などに「富士講」という信仰の集まりができました。飛田給では、明治13年（1880）に、村人15人が富士山に登拝しています。当時はまだ甲武鉄道（今の中央線）ができていませんでしたので、調布から富士吉田までのおよそ90kmを徒歩で行きました。そして、このような富士詣でに行けない村人のために、富士山を模した富士塚が、神社の境内に造られました。深大寺北町の富士嶽浅間神社には、20年ほど前まで、高さ4mほどの富士塚が残っていました。塚の上には、浅間社を祀った石碑が立っており、老人、子ども、女性なども富士塚に登り、お参りしました。この塚は、明治4年（1871）に完成した「深大寺用水」の堀をさらった土を盛り上げたという言い伝えがあります。こうした昔の記録や構築物をはじめ、古老の話や地名を考えあわせていくことで、当時、調布の地で生活を築いてきた人々の願いや暮らしぶりなど、土地に刻まれた歴史の一端をうかがい知ることができます。

参考文献：岩科小一郎『富士講の歴史－江戸庶民の山岳信仰－』



深大寺山野（北町）の
富士塚（平成8年撮影）



塚の上の石祠
（平成8年撮影）

刊行物番号

2018-148

図書館だより 第250号

平成30年12月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>